

令和三年度徳島文理中学校後期入学試験問題

第一限 国語 (その一)

注意 解答欄は問題用紙の(その六)・(その七)にあります。

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

いまの時代にあった、もっと役に立つ民主主義を変えてゆく方法はないのか、それが私の考えていることです。いくつか例を挙げて考えてみましょう。

① フローレンスというNPOの名前を聞いたことがありますか？ 駒崎弘樹さんが始めた病児介護を専門とするNPOです。

将来、みなさんもきっと経験すると思いますから聞いてください。小さい子どもはよく風邪をひくし、熱も出します。すると大変です。学校には行けませんし、保育園も預かってくれません。共働きの夫婦では、家に子どもひとり置いておくわけにもいきません。私も、さあ今日は重要な学会発表だという日に、子どもに熱を出され、妻と私とどちらが休むのか、頭が痛くなるような思いをしたことが何度もあります。こういうときに、具合の悪い子どもを預かるサービスが病児介護です。

代表の駒崎さんはまだ若い男性ですが、すごく面白いことを考えている人です。意外かもしれませんが、彼は結構ビジネスマンタイプ、起業して成功しようというタイプです。そして同時に政治にも関心があり、社会を変えたいという野心も秘めた人です。慶應義塾大学の湘南藤沢キャンパスで学び、まだ二〇代のうちにIT企業で成功を収めます。けれども、このまま大金持ちになって六本木ヒルズに暮らして、自分は社会を変えたことになるのだろうか、とある日考えたと言います。

自分が本当にやりたかったのは、自分の力で社会を変えることではなかったのか。ベンチャー企業でお金儲けするだけではなんかちがうぞ、と彼は自問しました。そのときに社会的起業家、ソーシャル・アントレプレナーという言葉に出会います。アントレプレナー、起業家です。ボランティアではありません。

では、「ソーシャル」とはどういう意味なのでしょうか。それは、この企業は、営利を上げることが目的にしていけないという意味です。普通の企業はできるだけたくさんのお金を儲け、株主に配ることが目的です。しかしフローレンスは社会問題を解決することを目指しているのです。お金が儲かったときには、株主に配当するのではなく、組織をより充実させるために使います。

駒崎さんはソーシャル・アントレプレナーという言葉と出会い、これだ！ と思ったと言います。そしてなにをすればいいのか、探しはじめます。そのとき彼は二〇代、結婚もしていません。家政婦をしているお母さんから聞いた、子どもが熱を出すところも預かってくれないという話をヒントに病児介護に乗り出します。調べて見ると、確かに学校と保育園はもちろんのこと、病院も預かってくれません。政府や市役所のような公共サービスも当てにできません。子どもを預かるサービスはありますが、値段がとて高い。そこで彼は、普通の夫婦が利用することができて、信頼できるサービスをつくろうと考えました。

最初は役所から資金援助を得て実現しようと考えましたが、そうするといろいろな縛りが厳しい。施設を設けるには、何平米以上の場所に何人以上子どもの面倒を見る人がいなければならない、などとさまざまな規制がある。まともにそれに対処すると、サービスの値段がどうしても上がってしまいます。そこで彼は、子どもを預かってもしっかりという普通の家庭の人と、いざというときのお医者さんのサポートをつなげていけないかと考えました。

初めはなかなかうまくゆかなかったようです。子どもが風邪をひくのはたいがい冬、十一月から二月くらいの間です。その間はいいのですが、四月から七月、気候のいい時期にまるで商売にならない。これはビジネスとしては重大な問題です。最終的に、掛け捨ての年会費を納める会員制度を導入して、年間を通してうまくやってゆけるようになりました。

面白いことに、厚生労働省がそのシステムを真似したそうです。「せっかくうまく行くようになったのに、真似されてくやしくない？」と聞いてみたのですが、彼はこんなことを言いました。「自分は社会を変えるためにこれを始めた。社会を変える方法はなんでもいい。まず、いままで誰もやったことのないことを自分でやってみる。あ、うまい仕組みだということになれば、みんなが次々に真似をして広がってゆく。これでいいんだと思った」と。

令和三年度徳島文理中学校後期入学試験問題

第一限

国

語

(その二)

駒崎さんは社会を変えたいと思う一方で、政治家になりたいとは思いませんでした。そして、いままで役所も企業もやらなかったけれども、あれば助かるサービスはたくさんある。それを実現する方法はアイデア次第だとわかった。何も自分が政治家や権力者にならなくても、あったら良いなと思う仕組みをつくる方法はいろいろある。駒崎さんは、「数で闘^{たたか}ったら絶対に若い世代は勝てない。だったら、自分たちで新しい仕組みを作ってしまえばいい。そのことをいままで『政治』と呼ばなかったことが、おかしかった」と言います。

政治とは、社会の問題をみんなで解決してゆくことです。民主主義はそのための方法です。誰か他の人に、問題解決を押しつけるための手段ではありません。駒崎さんの言うとおり、まず自分でやってみせ、それをみんなが真似して社会が変わっていく、それも政治だし、民主主義なのです。

注

(宇野^{うの} 重規^{しげき}「新しい民主主義をつくろう」)

※ NPO……(民間) 非営利組織。

※ 起業……新しく事業を起こすこと。

※ IT企業……コンピューターを活用する技術に関わる企業。

※ ベンチャー企業……革新的なアイデアや技術をもとにして新しいサービスやビジネスを展開する企業。

※ 平米^{へいべい}……平方メートルのこと。

問一 ――線部①「フローレンスというNPO」とあるが、この企業は「普通の企業」と違い、何を目的として作られましたか。また、儲かったお金を何のために使っていますか。「フローレンスというNPOは」という書き出しに続けて、二つ合わせて五十文字以内で書きなさい。（句読点なども文字数に数えます。以下同じ。）

問二 ――線部②「駒崎弘樹さんが始めた病児介護を専門とするNPO」は、――線部④「普通の夫婦が利用することができて、信頼できるサービスをつくろうと考えました」が、そのことを始めるにあたり、二つの困ったことに突き当たります。Ⅰ「その困ったこととはどんなことか」Ⅱ「そのためにどう対処したのか」をそれぞれ五十文字以内で書きなさい。

問三 ――線部③「社会を変える」ための方法として、駒崎さんは、「何をして、どうなっていくこと」がいいと考えていますか。「自分」「仕組み」「真似」という語を使って五十文字以内で書きなさい。

令和三年度徳島文理中学校後期入学試験問題

第一限

国

語

(その二)

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

サイドはその日、いつもよりも早めに目を覚ました。

太陽は明るく輝き、その日を歓迎しているようだった。今日は、サイドの十四歳の誕生日だ。

サイドは鳥かごの小鳥に餌をやり、家の外で薪を割っているジャミスのもとへと急いだ。

「おはよう、おじいちゃん」

「おはよう、サイド。どうしたんだい、いつもよりも早いじゃないか」

「おじいちゃん、今日が何の日だか忘れたの？」

「忘れちゃいないさ。今日はお前の十四歳の誕生日じゃ」

「おじいちゃんが僕の人生を変えるほど大切なものをプレゼントしてくれるって言ったのも覚えてくれているよね」

「ああ、大丈夫だ。もう用意してあるぞ。朝の仕事を終えたら私の部屋へおいで」

それを聞き終わるよりも早く、サイドは家のほうへと走りはじめていた。

ベッドを整え、家の中を掃除し、といった日課となっている仕事を次々こなし、近くの川まで行って水を汲んでくることがも

①含めて、サイドはすべてを驚くほどの速さで終えてしまった。

ジャミスが薪割りを終えて部屋に戻ってきたときには、すでにサイドが部屋の中で待っていた。

「フッフ、ずいぶん早いな。まあいいだろう」

そう言いながらジャミスは、木でできた古いイスにゆっくりと腰を下ろした。ギシギシというイスと床がきしむ音が止むのを待って、ジャミスが話しはじめた。

「さて、お前も今日から十四歳だ。これが何を意味するかわかるかい。お前が自分の人生をどういう人生にするのか、それを決める旅に出るときがいよいよやって来たんじゃないや」

「旅？ どういうこと？ 僕にはここでの暮らしもあるし、やらなきゃいけないことだって…」

「まあ聞きなさい。」

人間は遅かれ早かれ旅に出なければならないんじゃないやよ。自らの生き方を決める旅にな。お前は自分の人生をどういう人生にしたいと考えているんだい？」

サイドは左手の人差し指を鼻に当てて、少し考えてから答えた。

「何をやりたいとか、どうやってとかはわからないけど、とにかく幸せになりたい。毎日幸せで素晴らしい人生にしたい。そういう人生になれば本当にいいなあって思うよ」

「そうじゃろうな。お前ならそう思っているんじゃないかと思っていたよ。」

そこで、私はお前に『最高の賢者になる旅』をプレゼントしようと思う」

サイドは戸惑った。世の中にはいろんな仕事、職業があり、将来はその中のどれかにならなければ生きていけないとは思っていたが、『賢者』なんて仕事はなかったからだ。

「最高の賢者？」

「そうじゃよ」

ジャミスは立ち上がり、サイドのほうへと歩み寄った。そして、サイドの肩に手をまわすと抱えるようにして立ち上がらせながら話を続けた。

「最高の賢者になることができれば、人生は思いのままじゃ。人生に起こるあらゆることを味方につけて、自らが望むすべて

受 験 番 号

令和三年度徳島文理中学校後期入学試験問題

第一 限 国 語

(その四)

の、それこそあらゆる成功が手に入り、お前の望む幸せな毎日が手に入る。それだけではなく、お前の周囲にいるあらゆる人たちにも同じように成功と幸せをもたらすことだってできるのじゃ」

二人はいつの間にか、部屋の入り口まで来ていた。

「さあ、支度しだくをしておいで」

「えっ、今すぐ？」

「そうだ。もう今から始まっているのじゃよ。よく考えて、旅に出たくなければ、今日の正午まで自分の部屋にいるがよい。もし、旅をする気になったら、旅に出る準備をしてからもう一度この部屋に來なさい。

いいかい、くれぐれも忘れないようにな。

人間は遅かれ早かれ、自分の人生を決める旅に出なければならない。

そして、最高の賢者になるということは、あらゆる成功を手に入れることを約束された証あかしなのだということを」

そう言っているとジャミスは、サイドを部屋の外へとゆつくりと押しやり、扉とびらを開めた。

部屋の外で一人サイドは立ちつくしていた。ただ呆然ぼうぜんとして。

サイドが再びその扉の前に立ったのは、それから一時間ほど経たった後だった。

どうするべきか迷ったが、『どうしよう、どうしよう』と考えながら、旅に必要な道具を一つひとつ引ひき出して集めて

いる自分に気づいたとき、行ってみようという決心ができた。

どうしてそうなったのかと聞かれて、器用に理由を説明できるものではなかったし、自分でもよくわからなかったが、とにかく行くと決めてそこに立っていたのだ。

（後戻りするなら、今しかない）

③ 一瞬^{いつしゆん}そう考えたが、少年の心は旅に対する不安よりも期待のほうが大きかった。

意を決して、扉をノックした。

「おじいちゃん、入るよ」

扉を開けると、ジャミスは部屋の真ん中で両手を後ろに組み、直立不動で立っていた。

「よく来たな、サイド。そこに座^{すわ}りなさい」

サイドは無言で言われたとおりにした。

「ここに再び来たということは、旅に出る決心をしたということじゃな。心の準備はできておるか？」

「ウン」

「よし。これは私からのプレゼントじゃ」

そう言って、ジャミスは後ろに組んでいる手の中にあつた一冊の本を、サイドに手渡^{てわた}した。

木製の表紙には『賢者の書』というタイトルが記されており、真ん中部分には大きな正方形の凹^{くぼ}みがある。

「ハ、これは？」

サイドは中のページをパラパラめくってみたが何も書かれていない。全くの白紙だった。

「これは賢者の書だ。見てのとおり中にはまだ何も書かれていない。これからの旅を通して、お前がその中に物語を完成させていくのだよ」

令和三年度徳島文理中学校後期入学試験問題

第一限

国

語

(その五)

問一 — 線部①「サイドはすべてを驚くほどの速さで終えてしまった」とありますが、なぜサイドはこのような行動

をとったのですか。その理由を九十字程度で書きなさい。(句読点なども文字数に数えます。以下同じ。)

問二 — 線部②「ジャミスが話しはじめた」とありますが、

(1) ジャミスは十四歳という年齢をどのように考えていますか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

(2) ジャミスが、「最高の賢者になる旅」をプレゼントに選んだ理由を百字以内で書きなさい。

問三 — 線部③「意を決して、扉をノックした」とありますが、サイドが「意を決して」ジャミスの部屋に入るまでに

はどのような気持ちの変化がありましたか。七十字以内で書きなさい。

受 験 番 号

令和三年度徳島文理中学校後期入学試験問題

第一限 国 語

(その六)

一

問一

フローレンスというNPOは

問二

I 困ったこと その1

II どう対処したのか

[illegible][illegible]

受 験 番 号

第一限 国語 (その七)

[illegible]

[illegible][illegible]